

森の川自然散歩

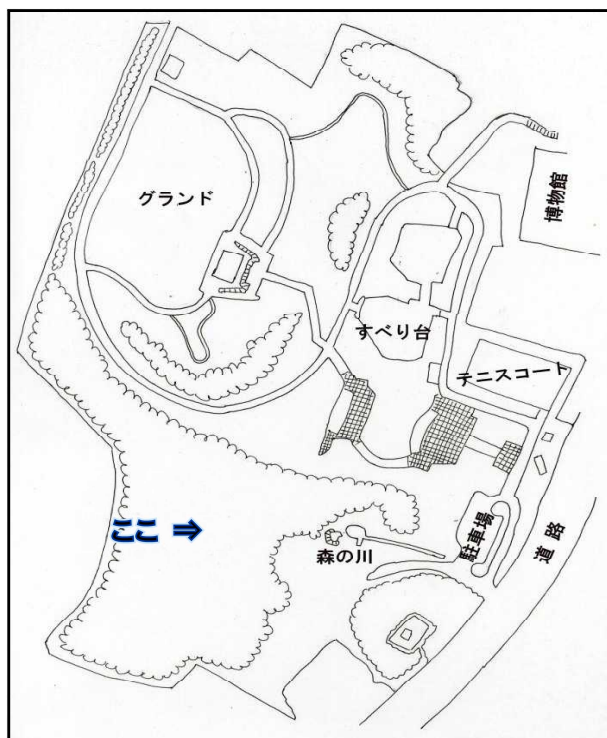
2018年4月号



上：地表を歩くオキナワキムラグモのメスと住居の入り口から外をうかがうメス。

オキナワキムラグモ（メモ）▶▶▶

- 背中に体節の名残り（写真の「これ」）を残しています。体節の名残りを持つことから、キムラグモは、昆虫類とクモ類が分かれた頃の、原始的なクモの子孫といわれています。
- 地面に穴を掘って、普段はその中にすんでいます。入口には土の扉をつけていて、あまり外には出てきません。
- 沖縄島にはオキナワキムラグモ、ヤンバルキムラグモ、クンジャンキムラグモの3種類がいます。中南部で見られるのは、ほぼオキナワキムラグモです。
- 森川公園では、ウガンノカタの後ろの森にすんでいます。探すのは簡単ではありません。



森川公園で見つける不思議

緑の公園には、不思議がいっぱい見つかります。

(14) 公園と拝所、二つの顔を持つ聖地

森の川の泉の後には、板戸のついた石門があります。その石門の後ろに、高さ120cm、幅30～60cm、厚さ10～22cmの石碑があります。これは1725年に、森の川の石積みと石門の完成を記念して建てられたもので、石碑には、石碑を建てた人びとと建てた理由、森の川と西森（ウガンヌカタ）を拝んでいたことなどが記されています。

西森（ウガンヌカタ）は、かつては真志喜のノロを除いて、一般の人の出入りは禁じられ、草木一本も採ってはいけない場所でした。そうした言い伝えが現在まで受け継がれ、森川公園の半分は、今もうっそうとした森になっているのです。



上:ウガンヌカタの上部にある岩壁。

森川公園4月の花ごよみ

君はどこからやって来た？
～ セイヨウタンポポ ～

- 公園の上の広場や、遊歩道の脇のなどで咲いています。比較的大きな黄色い花なので、少し注意するとすぐに見つけられます。
- ヨーロッパが原産の多年草です。根は太い直根で、葉は根元から放射状に出ています。大きな葉は少し苦みがありますが、サラダなどで食べられていました。そのためシヨクヨウタンポポとも呼ばれます。
- 名前の由来は、ヨーロッパ(西洋)からきたタンポポだからです。



上:広場のセイヨウタンポポ



左:セイヨウタンポポのがく。外側に向かって開くのが特徴です。

博物館で森川公園の見取り図をもらって、
自分が見つけた動物や植物をメモしていこう！

疑問や質問があったら、博物館の職員にいろいろ聞いてみてね。
宜野湾市立博物館 〒901-2224 宜野湾市真志喜1-25-1
Tel:098-870-9317 Fax:098-870-9316

